

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・51〉 いわき市立湯本第二小学校					
＜実施日＞	実践1	平成28年6月13日（月）	実践2	平成28年2月18日（木）		
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は（ ）に教科等を入れてください。					
	1 理科	2 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他（ ）		
＜実践内容＞	○実践1 副読本「放射線について考えてみよう」の活用 （1）副読本5ページ「身の回りの放射線」の日本の量（12ページ）を音読し、確認する。 ・宇宙から0.3mSv ・地表から0.4mSv ・空気から0.6mSv ・食べ物から0.2mSv （1年間一人当たりの平均値） （2）X線検査や飛行機などで受ける放射線の量はどれくらいかを考える。 （3）副読本12ページ「がんなどの病気を起こすいろいろな原因」の資料を見て考える。 （4）学習を振り返り、感じたことや分かったこと、不思議に思ったことをノートに書く。 ※使用教材：小学生のための放射線副読本「放射線について考えてみよう」 ○実践2 外部講師の活用（いわき明星大学石川哲夫特任教授） （1）放射線って何？ （2）放射性物質・放射能・放射線の違い ・火を例に挙げ、分かりやすく指導して下さったので子どもたちも一生懸命に聞くことができた。 ・初めて放射線の飛ぶ様子を間近にみた児童からは「すごい、種類によって飛ぶ方が違うんだ」という声が聞かれ、ワークシートにまとめた。 （3）放射線から身を守るには。 （4）霧箱観察 ＜成果＞ ・学習前の放射線へのイメージは「こわい・危険なもの」などだったが、学習を終えて「身近なもの。使い方をきちんとすれば役に立つ」に変化し、放射線の正しい理解につながった。 ＜課題＞ ・放射線をまったく気にしない、反対に放射線にとっても敏感といった、個人の感じ方の差が大きい。 <table border="1"><tr><td>資料作成担当者職（講師）氏名（松田 卓巳）</td><td>学校電話番号（43-2073）</td></tr></table>				資料作成担当者職（講師）氏名（松田 卓巳）	学校電話番号（43-2073）
資料作成担当者職（講師）氏名（松田 卓巳）	学校電話番号（43-2073）					

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日（月）までに電子メールで送信してください。
（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）